

## 発話行為「断り」に見られるストラテジー：「意味公式」の新しい枠組の創造

邱, 利華  
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/4494513>

---

出版情報：比較社会文化研究. 11, pp.23-28, 2002-03-15. 九州大学大学院比較社会文化研究科  
バージョン：  
権利関係：

# 発話行為「断り」に見られるストラテジー

## —「意味公式」の新しい枠組の創造—

邱 利 華

### はじめに

「意味公式 (semantic formula)」は発話を社会の相互作用の中で見た場合の発話行為具現化のための最小の機能単位であり(藤森1995:89)、「依頼」「断り」「謝罪」「ほめ言葉」「感謝」などの発話行為の研究に広く使われている。日本語教育の研究では、日本語学習者の発話行為「断り」の特徴を知るために、主な発話をその機能に基づいて分類し、その一つ一つを「意味公式」と称している。さらに、学習者の発話行為に現れる「意味公式」の順序、頻度、内容などを日本語母語話者のそれと対照することによって、学習者の発話の特徴を明らかにすることができる。「意味公式」は、このような分析の基盤になっているため、その分類の仕方がきわめて重要である。本研究では、従来多く使われている「直接的な意味公式」「間接的な意味公式」の分類法の問題点を指摘し、発話行為「断り」を分析する際に用いられる「意味公式」の体系を再構築することを試み、新しい枠組みを提示する。

### 1. 先行研究

#### —「直接的な意味公式」と「間接的な意味公式」

「断り」は招待、申し出、依頼、示唆などへの応答の形で起こる。意味公式の分類は、Takahashi & Beebe (1987) 及び Beebe ら (1990) の「断り」のプラグマティック・トランスファー(語用的転移)の研究で用いられたものが代表的である。その分類は次の通りである。

- I. Direct (直接的な意味公式)
  - A. Performative (遂行的陳述)
  - B. Nonperformative statement (非遂行的陳述)
- II. Indirect (間接的な意味公式)
  - A. Statement of regret (謝罪・残念な気持ち)
  - B. Wish (願望)
  - C. Excuse, reason, explanation (弁解、理由、説明)
  - D. Statement of alternative (代案の提示)
  - E. Set condition for future or past acceptance (将来や過

去になら承知したという条件提示)

F. Promise of future acceptance (次回の約束)

G. Statement of principle (自分の主義・信念)

H. Statement of philosophy (決り文句)

I. Attempt to dissuade interlocutor (相手を思い止まらせようという試み)

J. Acceptance that functions as a refusal (断りの働きをする承諾)

K. Avoidance (回避)

#### Adjuncts to Refusals (付随表現)

A. Statement of positive opinion/feeling or agreement (好意的な反応の表明)

B. Statement of empathy (同情)

C. Pause fillers (言いよどみ)

D. Gratitude/appreciation (感謝/謝意)

意味公式は機能単位でありながら、従来のこのような分類では形式に偏っている部分がある。その問題点として次の2つが挙げられる。

#### ①大きな枠組みの問題

「直接的な意味公式」(Beebe らの I Direct) と「間接的な意味公式」(II Indirect) という大きな枠組み自体が形式(form)による分類であり、「直接的な意味公式」に分類されている「お断りします」「できない」などと「間接的な断り」に分類されている「弁明」「回避」などが、フォームは異なっているが、相手を断るという機能が同様である(相手に与えるインパクトは異なる)。

#### ②「間接的な意味公式」の枠組みの中の問題

エリス(1996:185)では、この意味公式の分類について次のように指摘している。「Beebe が「間接」と区別した意味の定式は2種類あって、それらは区別が必要であろう。公式のいくつか、たとえば、「希望(wish)」はその準備をするなどして直接の拒否と共に用いられる一方、他のもの、例えば、「弁解、理由、説明(excuse, reason, explanation)」は直接の拒否の代わりに用いられる。」

また、Beebe らは「繰り返し」を「K. Avoidance(「回避」)」

のカテゴリーに分類しているが、これは単なる相手の話を自己確認し繰り返しているという機能も持っている。したがって、「繰り返し」＝「回避」という分類法が極めて危険である。

本研究は日本語と中国語を対照する目的で、ロール・プレイという調査方法で依頼に対する「断り」のデータをもとに意味公式の分類を試みる。具体的には、上で述べた形式と機能の問題を解決するために、「直接」と「間接」ではなく、「断り」の進行中の発話の機能に基づいて、「断りの意志を予告する表現」「断りの意志表示」「関係維持」のように分類した。

## 2. 調 査

本研究では、日常生活によく見られる依頼に対する「断り」のみに焦点を絞って、日本語母語話者 (JJ) 同士、中国語母語話者 (CC) 同士それぞれ10ペアにおいて、ロール・プレイを行った。1ペアが8場面のロール・プレイをし、トータルで160のロール・プレイのデータを収集した。被験者の詳細は以下のとおりである。(なお、場面設定やロール・プレイカードの詳細は邱 (2000) を参照されたい)

### 【日本語母語話者 (JJ)】

人数：20名 (10ペア) 年齢：22歳～26歳  
職業：大学生 (2名) 大学院生 (18名)

### 【中国語母語話者 (CC)】

人数：20名 (10ペア) 年齢：25歳～36歳  
職業：公務員、教師、大学院生 (理系)  
日本滞在歴：一ヶ月～1年  
日本語レベル：ほとんどできない

## 3. 意味公式の分類

### 一日本語母語話者と中国語母語話者の発話を例に

「断り」の談話は「依頼」を受けた後の断る側の取る言語行動で、その会話が終わるまでもしくは全く別の話題に移る直前までを指す (カノックワン1995:26)。意味公式の分類をする前に、「断り」の談話の例を見てみよう。

#### 談話例 1

JJ-1 (日本語母語話者の1組目) (A 頼む側 B 頼まれる側 以下同様)

……

→B 5 いや、ちょっと、申し訳ないですけど、

【予告】

今レポートとか宿題とかちょっと重なってて、で、後、バイトしているんで、そっちの方が優

先させないといけない状況なので、ちょっときついですね。 【意志表示】

A 6 あ、そうですか。

→B 6 ほかに誰かやれそうな方がいないんだっらいんですけど、ちょっと、もし、ほかに誰かいるんでしたら、ちょっと、申し訳ないですけど、申し訳ないですが。 【関係維持】

……

談話例 2 JJ-1

……

A 3 そうですね、全部で30ページぐらいあるんで、そんなに、30ページといっても、絵とか入っているんで、全部で5ページぐらいだと思います。

→B 3 あ、そうですか、外に人はいないですかね、 【予告】

A 4 やあ、その中国に2年間留学したことがあるので、それで中国語がばっちりと思って、

→B 4 いや、ばっちりじゃないですけど、いや、それ以前に、ちょっと、今忙しいんで、申し訳ないんですけど、できれば、あまり…、気が進まないけど、正直言って、 【意志表示】

A 5 あ、そうですか。

談話例 3 JJ-2

A 1 サークルの学園祭の準備、手伝って、

→B 1 ううん、どうしようかな。手伝える範囲は手伝いたいけど、 【予告】  
ちょっとバイトとレポートが多いけん、ううん、手伝えるようになったら電話するよ。 【意志表示】

A 2 分かった。

→B 2 でも力にはなりたい 【関係維持】

A 3 電話かけて。

以上の「断り」の談話を観察してみると、断る側が「断りの意志を予告する表現」(例えば「ちょっと申し訳ないけど」、「なんとかしたいけど」)、「弁明・不可・回避などの断りの意志表示」(例えば、「最近忙しいんで」「ちょっとできない」「考えさせて」)、「断った後の関係維持」(例えば、「他の人を紹介しようか」「2人でやるんだったら、できるかもしれないが」)のような発話を用いている。「断り」の段取りとしては以下のようなものが考えられる。

①「予告」→「意志表示」→「関係維持」

②「予告」→「意志表示」……

③……「意志表示」→「関係維持」

④ …… 「意志表示」のみ ……

従って、本研究では、意味公式の大きな枠組みを「直接的な断り」、「間接的な断り」ではなく、「断りの意志を予告する表現」「断りの意志表示」「関係維持」のように分ける。このような分類が従来の問題点を解決し、調査方法や目的が異なっても、この大きな枠組みは適用できると考えられる。

3.1 分類

同じ「わび」でも、「断りの意志表示」に先行する場合は断りの「予告」として機能し、後続する場合は「関係維持」として機能する。本研究の分類は、このように形式が同じであっても、機能が異なっているかどうかに基づいて分類した。本研究で試みた分類は表1のようになる。

表1

I 「断り」の意志を予告する表現	A 願望 B わび C 好意的な反応の表明+が D (否定的な態度の) 情報要求・繰り返し・相槌 E ためらい
II 「断り」の意志表示	A 不可 B 弁明 C 回避
III 関係維持	A 代案 B 条件提示 C 断りの意志表示後及び分かれる時のわび
付随表現	A 情報要求・繰り返し・相槌 B 好意的な反応

それぞれの特徴が以下の通りである。Iの「予告」はこれから行う断りのインパクトを和らげるために使用され、依頼の相手に交渉の余地を与え、依頼側も十分な断りとしては受け付けない。IIの「意志表示」は相手に交渉の余地を与えず、依頼側の反応もIの場合と異なり、依頼を諦めるか、食いついて依頼したりする。IIIの「関係維持」は「意志表示」のあと、相手との関係を修復、維持するために使用される。「付随表現」は断りとして機能しない表現である。

3.2 機能と例文

この節では、意味公式の機能及び実例を紹介していく。例文はすべて今回のデータから拾い上げたものである。

3.2.1 「断りの意志を予告する表現」及び「付随表現」

表1のIA「願望」とB「わび」は「弁明」などと同じく間接的な意味公式として扱われてきたが、次の2点

①ほとんどが儀礼表現である。②ほとんどがほかの意味公式の前に使用される

において「弁明」などと異なっている。また、「願望」と「わび」は後に続く行為が、相手の感情を害すると思わ

れる行為(例えば、「依頼」「断り」)に先行し、儀礼的に使われる関係修復1という機能を持つ発話である。次の例(1)~(4)は「願望」の例で、(5)(6)(7)は「わび」の例であり、断りの予告として機能している。

A 願望 (やりたいという気持ちを表す)

- (1) 「絶対手伝いたいと思うんですけど、最近なんか知らないけど、忙しいんですよ。」
- (2) 「我是想帮忙、但是心有余而力不足。」(手伝いたいんだけど、今そんな余裕がない。)
- (3) 「やれたらやりたいと思うんですけど、最近ちょっとねへたばってるんですよ。」
- (4) 「やりたいのは山々なんですけど、ちょっと今レポートとかの方が忙しくてですね。」

B わび

- (5) 「いや、ちょっと、申し訳ないけど、今レポートとか宿題とかちょっと重なってて」
- (6) 「あ、ごめん、私さあ、すごく忙しいの」
- (7) 「不好意思、能不能去找找其他人」(申し訳ないけど、他の人を探してもらえ)

C 好意的な反応の表明+が

生駒・志村(1993)では(Beebeら1990での意味公式を日本語訳し使用された)、「好意的な反応の表明+が」を「付随表現」として分類した。しかし、この「が」が持つのは逆接の機能で、Cの表現全体が「願望」「わび」と同じ機能を果たしていると考えられる。したがって、本研究では、「好意的な反応の表明」+逆接の「が」「けど(けれども)」を「断りの意志を予告する表現」に分類する。

- (8) 「お声をかけていただいて嬉しいんですけど」-JJ
- (9) 「すごく興味はあるけど、最近ちょっとバイトをしてて」-JJ

しかし、「好意的な反応の表明」は例(10)のようなものもある。

- (10) 「あ、面白いですね。」

例(10)のような「好意的な反応の表明」のみの発話は、これだけでは、「断り」とは関わりがないため、本研究では「付随表現」として分類する。

D (否定的な態度の) 情報要求、繰り返し、相槌

「情報要求、繰り返し、相槌」はその機能によって、一部「付随表現」に分類される。「付随表現」としての「情報要求など」は断る意志をほのめかす否定的な態度がなく、習慣的に使われているものである。否定的な態度であるか

1 「関係修復作業 (remedial work)」は、発話を社会的相互行為として捉え、危害を与える者が、その危害を容認できる状況に転換する作業である (Goffman1971:108)。

どうかを判断するのは聞き手の反応が手掛りになる。以下、「情報要求、繰り返し、相槌」に続く聞き手Aの反応に注目し「予告」としての「否定的な情報要求など」と「付随表現」としての「情報要求など」の談話の例をみてみたい。

談話例4 CC-4 「予告」としての「(否定的な態度の繰り返し)」

.....

A 5 是1個小冊子。大概有30頁左右。(小さなパンフレットです。30ページぐらい)

→B 5 30頁啊! (30ページ!)

→A 6 有很多插图, 字不会很多。而且是指南。  
(挿絵がたくさんあって、字が多くないし、ただの案内ですよ)

.....

談話例5 JJ-1 「付随表現」としての「繰り返し」

.....

B 2 ええと、どのぐらい時間かかりそうですかね。

A 3 そうですね、ええと、2週間で、

→B 3 2週間ですか。

→A 4 全部で30ページですけど。

.....

談話例4では、頼まれる側B5の「30ページ」という繰り返しに対して、AがBの否定的な態度に気づき、量の多さを感じさせないためにA6のように発話した。B5の発話が「断り」の予告として働いていると考えられる。一方、談話例5では、B3の「2週間ですか」という繰り返しに対して、A4が「断り」の予告として捉えず、続けて依頼内容の説明をしていた。

談話例6 CC-4 「予告」としての「(否定的な態度の情報要求、相槌)」

A 1 校庆, 想请你帮忙。(学園祭、手伝ってほしいけど)

→B 1 帮些什么忙啊? (どんな手伝い)

→A 2 很简单啦。画画海报, 打扫打扫。(とても簡単だよ、ポスターを作ったり、掃除したり)

→B 2 是这样的。 (あ、そう)

→A 3 时间不会花很多。(そんなに時間かからないよ)

.....

談話例6では、B1の情報要求に対して、Aが手伝いの内容を説明する前に、まず相手に精神的なプレッシャをかけないために、「とても簡単だよ」と発話した。さらに、B2の相槌後、AがA3のような発話を用いて、相手にかかる負担が大きくないことを強調している。

これに対して、「付随表現」としての「情報要求」(談話

例5のB2)、「相槌」は、相手にマイナスな態度をほのめかしたり、予告したりする機能を持たない。

以上の談話例4, 5, 6のように、Bの否定的な態度の「繰り返し」「情報要求」「相槌」は最終の断りにつながり、断りの準備をしていると見て取れる。依頼側のAはBの否定的な態度に気づき、Bにかかる負担を小さくする方策を取っている。

依頼される側の同じ形式の「情報要求など」が、「予告」と「付随表現」のどちらとして機能しているのかを判断する際に、談話の流れの中の発話のイントネーション、トーンや依頼側の反応などが手がかりになる。談話例4のB5の発話は急にトーンがあがってびっくりした様子を表しているのに対して、談話例5のB3は低い声で考えているように発話した。前者が「予告」で、後者は「付随表現」として機能していると考えられる。

E 「ためらい」

談話例7 JJ-2

A 1 学園祭、手伝って。

→B 1 ううん、どうしようかな? 手伝える範囲は手伝えたいけど、ちょっとバイトとレポートが多いけん。ううん、手伝えるようになったら電話するよ。(笑い)

「どうしようかな」に続いて、「断り」の意志を表明するための「弁明」が使われた。この「予告」によって、断りのインパクトが和らげるようになり、断る側Bの相手に対する配慮が窺える。

### 3.2.2 「断り」の意志表示

「不可」「弁明」「回避」はIの「予告」と違って、「断り」の談話構造の中心であり、次のような特徴が挙げられる。

- ①これらの発話によって、相手との関係がアンバランスになる恐れがあるため、その前後に関係修復としての「予告」や「関係維持」が表れることが多い。
- ②これらの発話後に、Aが頼むのをあきらめるか、食いつがってもう一回頼むかのどちらかである。
- ③これらが同じターンの中で組み合わせられて現れることも多い。例えば、「不可+弁明」、「弁明+不可」「弁明+回避」などである。

談話例8, 9がこのような特徴を表している。

A 不可

「不可」は、形式上は「お断りします」という遂行動詞を使ったり、「できない」のような否定文を使ったりして断っているが、「意志表示」という機能から見れば、「弁明」

や「回避」と類似している。

談話例 8 JJ-10

A 1 中国語訳をやってもらいたいけど、都合の方はどうかかな？

B 1 ええと、アルバイトの方もちょっとやってるので、できればお断りしたいけど。

【意志表示】

A 2 でも、君ぐらい熱心で、2年間留学したこともあるし、30ページ長いけど、どうにかならないかな。

【食い下がって依頼】

B 2 単位のほうが心配なんで、できれば、他の人に当たってほしいんですけど。

【関係維持】

(11)(12)(13)は不可の例である。

(11) 「できれば遠慮したいけど」——JJ

(12) 「なにか最近無理っぽくて」——JJ

(13) 「恐怕不行」(多分できない)——CC

B 弁明

「弁明」は言い訳や弁明によって相手の意向に添えないことを自分の責任にしないようにすることであり、実質的には「断り」を意味する。

談話例 9 JJ-5

A 1 …ガイドブックの訳をもしかまわなければ、中国語の訳の部分

B 1 …ちょっと忙しくて、ほかに手避けられない状況なんですけど、とても申し訳ないですけど、

【意志表示】【関係維持】

A 2 そうですか。あのうほかにも中国語できる人がいればその人に頼めるんですけど、ちょっと私の周りにそういう人がいないもんだから、まあ、そうだね。ちょっとでもできない？

【食い下がって依頼】

(14)(15)は弁明の例である。

(14) 「ちょっと最近忙しいんで、できれば遠慮したいけど」——JJ

(15) 「我現在正在外面打工、每天都要去」(今毎日アルバイトをしている)——CC

C 回避

「回避」はダイレクトに返答を避けるために使われている。

本研究ではその機能から以下の三つ「延期」「省略」「言葉を濁す」を「回避」のカテゴリーに分類した。

・延期 (16) 「ちょっと、考えさせてもらえますか」——JJ

・省略 (17) 「今すごく忙しいんで、できれば…」

(18) 「やれるかどうか、ちょっと…」——JJ

・言葉を濁す (19) 「本当に分からないんですよ」

——JJ

今回の調査では殆どの談話にA, BあるいはC(組み合わせられて現れる場合も含む)が使用されたが、実際の日常会話では「すみませんが」「やりたいのは山々ですが」などの発話のみで断る、すなわち、「不可」「弁明」「回避」などの断りの意志表明が省略されることもある。この場合の「すみませんが」は、「予告」と「意志表示」の機能を同時に果たしていると考えられる。

その他、今回のデータの中には表されていないが、「断りの意志表示」として機能するのは、Beebe らの中の「自分の主義・信念」,「決まり文句」,「話題の切り換え、冗談」などが考えられる。

### 3.2.3 関係維持

「関係維持」の中の項目は、「断りの意志表示」による相手との不均衡な関係を修復、維持しようとする点に共通性が見られる。

A 代案

「代案」はその貢献度の差によって、二つに分けられる。一つは積極的な代案であり、依頼される人が直接に具体的な方法を提示したり、他の人を紹介したりする(例20)。

(20) 「我给你介绍一个我的朋友？」(私の友達を紹介しましょうか)——CC

もう一つは消極的な代案であり、断る人が直接関与せず、方法を提示するのみである。

(21) 「他の人にあたって」——JJ

(22) 「你去找找其他人？」(他の人を探してみては)

——CC

B 条件提示

「条件提示」も積極的な条件提示と消極的な条件提示に分けられる。前者は具体的な条件を提示し、積極的に取り組もうとする姿勢を表す(例23)。後者は将来や過去になら承知したという旨を表明する(例24)。

(23) 「全部出れるわけじゃない、出れるときだけでいいですか」——JJ

(24) 「もうちょっと前に言ってくれたらよかったんだけど」——JJ

C 断りの意志表示後及び分かれる時のわび

「意志表示」の前にくる「わび」と違って、最後に現われる「わび」は「関係維持」としての機能を果たす(例25)。

(25) …B 2 ばたばたして、アルバイトも、あのう宿題の

ほかに、アルバイトもあるんで、大変忙しい。

A 3 じゃ、ちょっとほかの人に当たってみます。  
ありがとうございました。

→B 3 すみません。

その他、誘いに対する関係維持として李威 (1999) では、「あいさつ (楽しんできてね、また話聞かせてね)」というカテゴリーを立てている。また、「次回の約束 (今度チャンスがあったら、手伝うよ)」のような意味公式もある。

## 終わりに

本研究では、機能に基づき、発話行為「断り」を分析する際の意味公式の大きな枠組みを提示した (3.1の表1)。この枠組みでは従来の「直接的」「間接的」の分類で十分説明できなかった機能と形式の問題を解決することができると思われる。また、異なった調査方法や場面設定によって、ここで提示しなかった他の意味公式が現れても、研究者がその機能で判断し、「予告」「意志表示」「関係維持」の枠組みのどれかに所属させることが可能である。

実際の会話を収集し、非言語的な要素も考慮して、より普遍的な意味公式を構築することを今後の課題としたい。

付記：本稿は日本コミュニケーション学会九州支部第7回大会における発表原稿に加筆し、修正を加えたものである。

## 参考文献

- 生駒知子・志村明彦 (1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー：「断り」という発話行為について」『日本語教育』79号 PP. 41-52
- カノックワン・ラオハブラカキット (1995) 「日本語における「断り」—日本語教科書と実際の会話との比較」『日本語教育』87号 PP. 25-39
- 邱利華 (2000) 「日本語母語話者と中国人日本語学習者の「断り」の対照研究」『比較社会文化研究』第8号 九州大学大学院比較社会文化研究科
- 熊井浩子 (1993) 「外国人の待遇行動の分析(2)—断り行動を中心に—」『研究報告 人文・社会科学編』第28巻第2号 静岡大学教養部
- 江連成美 (1995) 「中間言語語用論に関する考察—断り行動を通して—」平成7年度日本語教育学秋季大会予稿集
- 藤森弘子 (1995) 「日本語学習者に見られる「弁明」意味公式の形式と使用—中国人・韓国人学習者の場合—」『日本語教育』87号 PP. 79-89
- ポリー・ザトラウスキー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘ストラテジーの考察』くろしお出版
- 李威 (1999) 「日・中・韓母語話者の「断り」行為の対照研究」日本語教育学会秋季大会予稿集 PP. 181-186

- ロッド・エリス (金子朝子訳) (1996) 『第二言語習得序説 The Study of Second Language Acquisition』 研究社出版
- 山口和代 (1997) 「コミュニケーション・スタイルと社会文化の要因—中国人及び台湾留学生を対象として—」『日本語教育』93号 PP. 38-48
- 横山杉子 (1993) 「日本語における、『日本人の日本人に対する「断り』』と『日本人アメリカ人に対する「断り』』の比較—社会言語学のレベルでのフォリナートーク—」日本語教育 81号 PP. 141-151
- Beebe, L.M., Takahashi, T., & Uliss-Weltz, R. (1990) Pragmatic transfer in ESL refusals. In R. Scarcella, E. Andersen, and S. Krashen (eds.), *Developing Communicative Competence in a second Language* PP. 55-73 (Newbury House)
- Cohen, A., & Olshtain, E. (1981) Developing a measure of sociocultural competence: The case of apology. *Language Learning*, 31(1) PP. 113-134
- Ueda, K. 1972 Sixteen ways to avoid saying 'no' in Japan. In: John Condon and Mitsuko Saito (eds.), *Intercultural Encounters with Japan: Communication-Contact and Conflict*, 185-192. Tokyo: The simul press.